

○遠足の聖地プロジェクト推進計画（案）に対するご意見（計画全体）

No	ご意見	市の考え方
1	第2期計画（以下「本計画」という。）背表紙の発行年は、令和3年5月となっています。今回の計画については令和3年度から7年度までを計画期間としています。これでは計画はスタートしているのに発行は遅れたかたちとなります。計画のスタートが令和3年6月であれば、繰越したのかとも思いますが、第1期計画（現在計画）の終わりは平成32年度で、計画に空白が生じます。第1期計画も同様のかたちとなっています。大変違和感を感じます。年度を区切りとして仕事を進め3月中に完成させるのが通常だと思います。産業振興課の令和2年度の本計画の策定工程は、年度当初から令和2～3年度に策定するという予定だったのででしょうか。	ご意見のとおり、空白が生じないように策定します。
2	P8以降、基本施策が書かれています。計画書の構成とすると、視点以下に数行書かれているものが施策で、具体的な施策に書いてある観光パンフレットによるPR、多言語看板の整備など、これらはみな事業です。「具体的な施策」という表記を「具体的な事業」と直した方がよろしいかと思ひます。事業を一つ一つ実施することで、施策が達成されていきます。	ご意見のとおり、修正します。
3	公用文表記基準に準じる記載 ①公用文の表記は「常用漢字表」に原則拘束されることとなっています。常用漢字を使うところが平仮名になっていたり、この逆も散見されました。 ②送り仮名も言葉により難しい言葉もありますが、再度見直ししてください。 ③同じ言葉の表記が不一致になっているものが、散見されました。よく、見直ししてください。	ご意見のとおり、修正します。
4	敬語表現 皇族に關係した文章は敬語を用いてよいと思ひますが、公用文は丁寧語を除いて、敬語は用いないようです。	ご意見のとおり、修正します。
5	第6次総合計画と本計画が令和3年度から同時にスタートすることは絶好のタイミングだと思います。本計画についてはリーディングプロジェクト、前期基本計画と重複しています。高い目標が設定されています。目標の達成、計画の推進に当たっては政策秘書課、産業推進課が事務局だからということにならないよう、職員一丸で取り組んでいく体制をぜひ構築してください。どうすれば達成できるかを考え、そして市民、各種団体、企業に働き掛けて日高市のまちづくりが進展することを期待します。	ご意見のとおり、取組体制を検討し、より良いまちづくりに努めます。
6	施策・策定過程においてその案趣旨等を公表し市民からの意見を考慮して意思決定を行うとともに提出された意見の概要及び意見に対する市の考えを公表とありますが？ 日高市立地適正化計画（12・13・14）に於いては参考とさせていただきますが具体的な市の考えが伝わらず 日高市空き家対策では住まいの終活についてご指摘の通りと具体性が外部評価の災害対策ラウンドアバウトに対して飯能警察署ではなく土木事務所に確認では？ 子育て支援 7年度までに3学区で小中一貫教育、、、空いた教室・建物その他の施設の利用等方向性が見えず市の考えがうかがえない 浄化センター 昭和・平成の頃の美味しい水に、、、県水56%を減らし地下水を昭和の頃にと配慮をお願いしたのですがちんぶんかんぶん 高齢者福祉対策計画（1）福祉事務所に相談をと、とご相談くださいでは市の取り組み長寿化に対する考えが伝わらず市での他の街に対して独自の対策・政策が見込めず 考え方が受け身そのもの、市民の言いつばなしになり具体的な市の考えの公表が見えてません何のための市民コメントなのか？	本計画を推進するため、市としての方向性がわかりやすく伝わるよう努めます。
	『若い人の声が反映される組織作りを』 推進主体は、産・学・官・市民等の団体が考えられ、との事ですが早くプロジェクトチームを作った方がいいと思ひます。そのチームには権限・予算を持たせ具体的な動きが取れる形を作らないと机上の空論で終わってしまうでしょう。ただ、それを束ねる組織が無ければプロジェクトは進行しないと思ひますので、観光課を作り窓口を一本化していく必要があると思ひます。現状の市の体制で難しいのであれば、外郭団体を作るのもありだと考えます。 観光業は一つの大きな事業です。ここ数年は残念ながら、観光客数はそれほど伸びていないのではないのでしょうか？これは残念ながら発信している情報がキャッチされていないということだと思ひます。 観光に来て、リピーターとなり、移住者となる。そんな流れができれば、企業誘致以外にも人口減少に歯止めをかけるサイクルを作れると思ひます。高齢化する今後は、いかに若い世代を移住させるかがポイントになると思ひます。その若い世代に、いかに情報をキャッチしてもらえものを作るか？ その意味でも、プロジェクトチームや外郭団体には是非、20代、30代の人をも巻き込んで若い人の声が反映される組織作りが重要と考えます。	ご意見のとおり、情報発信方法について検討します。
7	提言「遠足の聖地は学びの場」 巾着田、遠足の聖地は良い計画と思ひます。 そこで提言 小学生の遠足で日和田山に登った時、鳥居の中に見える巾着田。 確かその時は一面にレンゲが植わっており先生から「レンゲは緑肥となり稲作を豊かにする、昔肥料の無い時の知恵だ」と教わったのを今でも覚えている。遠足の思い出は昔の人が知恵を絞り巾着田を大切に使った事を学んだ事。 温故知新、歴史を学ぶ事は大事な事である。 1300年を誇る高麗の歴史、そして巾着田はその中枢にあった。 宮澤賢治曰く「一日に玄米4合と味噌と少しの野菜を食べ・・・」 ついでこの間まで日本人はこの様な自給自足の生活をし 狭い土地を田に変え稲作を行った、そして田圃の畔を利用して大豆を作りそれから味噌、醤油を作った。 巾着田には小川も流れ水車もある。 当に日本の原風景、日本の縮図。 それを再現すべく小さな田を作り、あぜ道に大豆を植え裏作にレンゲを植える。 遠足でその風景を実感できれば 日本人が如何にモノを大切にしてきたかを学ぶ事が出来るのでは。 そしてそれが「遠足の聖地は学びの場」につながるのではないかと思ひます。	ご意見のとおり、学びの場として活用できるよう検討します。